

宗岡中だより



6月号 令和2年6月1日(月)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

さきたま 「幸魂の 橋を吹き抜け 初夏の風」

校長 佐藤哲浩

「夜明けの来ない夜はない」、25日に緊急事態宣言が解除され、3ヶ月停滞していた教育活動が動き出そうとしています。先行きの見通せないトンネルからようやく抜け出そうとしている感じです。この間生徒、保護者の皆様におかれましては家庭内外で多くのストレスを抱え、経済的にも大変な生活を強いられたのではないのでしょうか。とにかく心身の健康に配慮し、新たな生活に少しずつ慣れていってほしいと願います。

過日調査した保護者アンケートで「今、困っていること、不安に感じていることは何ですか。」の項目で、子どもの運動不足、家庭学習のこと、生活のリズムの乱れが、予想どおりそれぞれ過半数を占めていました。私自身も運動不足を感じ、週末は午前中に家の仕事をして、午後からは3密を防ぎ、河川の土手を中心に一人強歩会(20km)を行っていました。日替わりで20kmのコースを設定し、家路に着くのは夕方。実際に歩くことで今まで気づかなかった洒落たレストラン等を発見し、近隣市の地理を知る機会にもなりました。その中で私が一番気に入ったコースは、朝霞の自宅から黒目川を下り田島団地を通り抜ける。爽やかな初夏の風を受けながら幸魂大橋を渡り、戸田の道満パークへ、ヤクルトの2軍練習場を眼下に見ながら北上する。秋ヶ瀬橋を渡り宗岡を通り抜け志木駅へ、そしてゴールの自宅へと。健康増進と減量の一助となったかもしれません。



話は変わって、20日に夏の全国高校野球選手権大会が新型コロナウイルス感染拡大で中止になりました。高野連が中止に踏み切った背景には、①選手や関係者の移動や宿舎での感染リスクが高まること、②臨時休校が長期化し部活動再開のめどが立たないこと、授業時間確保のため夏休みを短縮し授業日を増やす中、地方大会が学業の支障になりかねないこと、③練習期間が短いため、怪我や熱中症のリスクがあること等が挙げられています。これまでも、夏の全国高校総合体育大会(インターハイ)や全国中学校体育大会(全中)が中止になり、各都道府県の公式大会も中止、そして朝霞地区中体連主催の朝霞地区大会も中止となりました。今の日本の状況を鑑みると致し方ないかもしれません。

中高生にとっては、春から夏にかけて心技体とも一番成長する時期です。特に5、6月はレギュラー争いも佳境になり、ハードな練習で肉体的、精神的にも追い込まれる一方で、全員で乗り越えたときにはチーム内の絆はより深まり、冬場に蓄えた力を増幅するからです。大会を目標にしてきた選手にとっては、この無念さは他者が代弁できるものではありません。何を言っても慰めにはなりません。大会を目標にして一生懸命練習に取り組んできたプロセスは、心の中で決して失われることはないと思います。